



# 遍路道保存から広がるご縁を大切に

加茂谷へんろ道の会 原 恵美さん（吉井町）

絆きずなという言葉が今のようになかんに使われるずっと前から、この四国は人との絆を大切にしている土地柄でした。それには「ご縁」という言葉が使われています。今、はやり「おもてなし」というものも、ここでは「ずっと昔から大事にされてきました。四国ではそれを「お接待」といいます。ご縁を大切にすることも心からのお接待も、四国八十八ヶ所霊場と、それをつなぐ遍路道を行くお遍路さんたちと関わることによって生まれた四国独特の「文化」からきたものです。絆もおもてなしも、たとえ遍路文化に興味がなくとも、四国生まれの人にはDNAに刻まれている習慣のようなものだなと思っています。徳島は四国の中でも、お接待文化がより強いように思います。そんな徳島の阿南市で、「全国歴史の道会議」が開かれました。

もう、皆さまもご存知かと思いますが、鶴林寺道、太龍寺道・いわや道は国指定の史跡ですし、「かも道」

は四国最古の遍路道です。大会に先立ち、「加茂谷へんろ道の会（以下、保存会）」が結成され、私もメンバーに入れていただきました。

私は、加茂谷で民宿を営んでおり、お遍路さんに多く利用していただいているため、自ら遍路道をくわしく知っておきたいと思いつきました。月に1回程度の勉強会や遍路道の清掃活動は、他県から嫁いだ私にとって、地元の方々と交流できる大切な活動の場となっています。

大会では、発表する保存会会長の横井さんの応援にかけつけ、私自身も多くの方に遍路道の魅力を直接PRすることができました。2日目に予定されていたウォーキングは、残念ながら雨で中止となりましたが、全国から集まった方々に遍路道の存在や地元の活動や努力を知っていただけでと感じています。

今、私の元に、「かも道を歩くために宿泊したい」という問い合わせが寄せられています。うれしいこと

に、大会を通じて知り合った他県の方々が、「未整備の遍路道を一緒に整備したい」と参画してくれることになりました。1月中旬に2日間かけて遍路道を整備し、3日目に保存会のメンバーと実際に歩いてみるという企画で、保存会や市に提案していただいています。こちらからの呼びかけではなく、「一緒にさせてください」と、四国外の方から申し出があるなど、大会は大成功だったなと思います。

一人黙々と歩く遍路道ですが、実は交流の場に活用できることがわかりました。ほんの小さなカテゴリーでの絆ですが、この道は四国の財産だという機運は確実に広がっています。私も保存会の一員として、お遍路さんを受け入れる宿として、たくさんさんの情報をお遍路さんに発信し、地元の若い世代や子どもたちにも「実は加茂谷にはすごい道があるんだよ!」と伝えていきたいと思っています。

